

生きものに興味津々

子どもたちがエコパーク学習

登館日の活動の一環として7月29日、南麓地区の子どもたちと保護者、自治公民館役員の皆さん42人が綾ユネスコエコパークセンターを訪れました。

子どもたちは、ふるさとが自然を守りながらそれを活用しつつ各地域で持続可能な暮らし

を営むことを両立させる世界のモデル地域であり、ユネスコから高く評価されたことなどを学びました。

また、展示室ではヒキガエルやスッポンがエサを食べる様子を観察したり、ニホンイシガメやクサガメに触れて、違いを観察したりしました。



8月2日には、綾町児童クラブの子どもたち約40人が児童館の指導員と一緒に来館。展示室の見学を楽しみました。これまで、高年者クラ



ブや赤十字奉仕団などの団体も視察や研修などで利用されています。地域での活動などの一環として、ぜひ同センターをご利用ください。

■問い合わせ先／綾ユネスコエコパークセンター
☎ 77-3482
※火曜休館

column

ニホンジカ

背中白斑点いわゆる「かこ模様」が特徴的。毛並みが美しく、古くから日本人になじみ深い野生動物です。

森林や草原など多様な環境に適応して生活していますが、現在は山だけでなく人里に近い地域まで分布を広げています。そのため、農林業の被害や生態系の破壊、ダニやヤマビルなどの媒介などさまざまな問題を引き起こしています。

その原因には、燃料革命や拡大造林など人間の土地利用の歴史の変遷が大きく関わっていると考えられています。人間が過去に自然に対して行ったきた活動の影響が反動として還ってきていることを、ニホンジカは身をもって私たちに伝えてくれているのかもしれない。

